

平成 31 年 4 月入学 総合研究大学院大学複合科学研究科
極域科学専攻入学者選抜 小論文（5 年一貫制博士課程）

<注意事項>

- ・ 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- ・ 試験時間は 60 分です。
- ・ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- ・ 試験開始の合図後に、解答用紙の指定の欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
- ・ 解答用紙は横書きで使用しなさい。
- ・ 解答用紙が複数枚にわたる場合には、すべての解答用紙に受験番号、氏名を記入し、さらに、解答用紙右下の所定の欄に、ページ数を記入しなさい（2 枚の場合には、1 / 2、2 / 2、3 枚の場合には 1 / 3、2 / 3、3 / 3）。
- ・ 解答用紙がさらに必要な場合には、挙手をして監督者に知らせなさい。
- ・ 試験中は机の上の見やすい場所に受験票をおきなさい。
- ・ 試験中に机の上におけるのは、受験票の他、黒鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（手動式のもの）、時計（計時機能だけのもの）です。
- ・ 耳栓は使用できません。
- ・ ハンカチ、ティッシュペーパー、目薬等の使用を希望する者は、監督者に申し出て許可を受けてから使用しなさい。
- ・ 試験時間中は、監督者の指示に従いなさい。従わない場合は退室させることがあります。
- ・ 不正行為と認められた場合は、受験自体を無効とします。
- ・ 試験室に入室してから試験終了までは、試験中の発病又はトイレ等やむを得ない場合を除いて原則として一時退室を認めません。やむを得ない場合には、手を挙げて監督者の指示に従いなさい。一時退室が認められた場合でも、原則として試験時間の延長は認めません。
- ・ 試験終了 5 分前になったら、終了 5 分前の合図をします。
- ・ 試験終了後、問題冊子、解答用紙を持ち帰ってはいけません。

<小論文>

問題：以下の文章は、1934年に日本の物理学者が書いた文章の一部を抜粋したものである（注と読み仮名は出題者が加筆したもの）。この文章を読んであなたが考えることを記述せよ。

なお、本問題は、論理的な思考、人に物事を伝える表現ができるかどうかを問うための問題である。あなたが、この文章の内容を肯定するか否定するかは問わない。また、字数は1000字程度を目安とする。

科学の進歩に伴う研究領域の専門的分化は次第にはなはだしくなる一方である。それはやむを得ないことであり、またそういう分化の効能が顕著なものであるということについては今さらにいうまでもないのであるが、この傾向に伴う一つの重大な弊（へい）*1は、学者が自分の専門に属する一つの学全体としての概景を見失ってしまい、従って自分の専門と他の専門との間の関係についての鳥瞰的認識を欠くようになるということである。それだけならば、まだしもであるが、困ったことには、各自が専門とする部門が斯学（しがく）*2全体の中の一小部分であることをいつか忘れてしまって、自分の立場から見ただけのパースペクチヴ*3によって、自分の専門が学全体を掩蔽（えんぺい）*4するその見掛け上の主観的視像を客観的実在そのものと誤認するような傾向を生ずる恐れが多分にあるのである。平たく言えば自分の専門以外の部門の事がらがつまらなく自分の専門だけが異常に特別に重大に見えて来るのである。

（寺田寅彦『学位について』より抜粋）

- *1 弊（へい）：良くないこと
- *2 斯学（しがく）：その学問
- *3 パースペクチヴ：見通し
- *4 掩蔽（えんぺい）：覆い隠すこと